第1回飯田市社会福祉審議会 高齢者福祉分科会 議事録(概要)

■ 開催日時 令和7年7月15日(火) 14時00分～15時13分

■ 開催場所 飯田市勤労者福祉センター3階 第3、4研修室

■ 出席委員 17名

氏名	出欠	氏名	出欠
足立 牧子	○	棚田 淳史	○
何原 真弓	○	塚平 俊久	○
市瀬 由里子	○	遠山 清美	○
氣賀沢 公彦	×	土岐 清人	×
小林 弘	○	林 恵子	○
桜井 幸代	○	松下 規代志	○
幸森 信良	○	松村 和代	○
代田 妙子	○	松村 秀樹	○
多田 雅幸	○	山田 達朗	○
田中 光子	○		

■ 出席事務局 8名

氏名	部・課・係名	備考
林 みどり	福祉部長	
前澤 英明	長寿支援課長	
下島 剛	長寿支援課長補佐兼介護保険係長	
小椋 直美	長寿支援課 基幹包括支援センター係長	
山岸 章広	長寿支援課 介護認定支援係長	
板倉 和代	長寿支援課 長寿支援係長	
原田 麻理	長寿支援課 介護保険係	

1 開会

2 福祉部長あいさつ

皆さん改めましてこんにちは。皆様におかれましては、飯田市社会福祉審議会の改選に当たり、委員をお引き受けいただきましてありがとうございます。また、本日は公私ともお忙しい中、第1回目の高齢者福祉分科会にご出席をいただき誠にありがとうございます。

当分科会は、高齢者保健福祉・介護保険事業に関する事項をご審議いただく目的で設置されております。

各分野から委員をご選出いただいておりますが、委員の皆様におかれましては、それぞれの分野でご尽力いただき、大変感謝を申し上げます。任期は3年間でございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、ご承知の通り、令和7年は2025年問題と言われる年で、いわゆる団塊の世代の全てが75歳以上となる年でもございます。今後も介護サービスを必要とする後期高齢者の増加が見込まれており、介護保険サービスの提供体制の確保や、持続可能な制度運営が非常に重要な課題になります。当市においても、令和6年度から3年間の計画期間とする第9期介護保険事業計画を策定して、取り組みを進めております。今年はその3年間の2年目の年です。

本日は、新たに委員になられた皆様もいらっしゃいますので、第9期介護保険事業計画の概要について改めてご説明しまして、初年度である令和6年度の給付等の状況や主な取り組みの状況につきまして、ご報告をさせていただきます。第1回ということですので、こちらからの説明が多いかと思っておりますけれども、委員の皆様には、忌憚のないご意見を頂戴したいと存じます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 自己紹介

4 飯田市社会福祉審議会の概要（資料No.1）

5 会長・副会長及び本部会委員の選任

6 会長・副会長あいさつ

会長：みなさんこんにちは。前期に引き続いて会長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。委員の皆様には、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。各団体の代表という立場を踏まえて、ご気軽に率直にご意見をいただき、充実した審議ができますように、ご協力をよろしくお願いいたします。

副会長：こんにちは。前期に引き続きまして、副会長を務めさせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

7 報告・協議事項

(1) 飯田市地域密着型サービス運営委員会委員及び飯田市地域包括支援センター運営協議会委員の選出

質疑応答なし

(2) 第9期介護保険事業計画の概要等について（資料 No. 2）

委員：今の特養の待機者というのは何人くらいですか。これは南信州広域連合でないとわからないでしょうか。

事務局：およそ500人後半ぐらいです。現在、特養の新規申し込みより待機者の方が少なくなっているという状況を聞いております。

(3) 令和6年度給付費等実績報告について（資料 No. 3）

委員：実績としては、施設が増えた部分は突出していますが、それ以外は予測値以内に収まっているということでしょうか。

事務局：はい。

(4) 介護人材確保事業の実績について（資料 No. 4）

委員：私は、看護の方の職場団体にも所属しているので、介護職員の人材が足りないというのは、看護の方も全く同じで切実な問題です。介護人材の定着のため研修機会を多く持つことも重要ですし、これからも続けていかなければならないことだと思います。

看護の分野は、人材が増やせないのが、機器の導入などに頼りながら、質を維持するためにどうするか、という考え方が浸透してきています。そういう中で、介護の現場においては、長期的に見て介護福祉機器を導入し、人材が少なくなったとしても質を維持していくような、具体的に何か考えられていることや今後の方向性があれば、お聞きしたいと思います。

事務局：貴重なご意見ありがとうございます。介護人材の確保について、従来から研修の補助金などがありますが、さらに需要と供給のマッチングや、定着と育成という点で、いろいろな支援をしているところです。

介護福祉機器の導入について、今年度から新たな取り組みを進めています。目的とするのが職場環境の改善で、介護する上で重労働的な部分を少しでも緩和し、負担軽減を図っていきたくと考えています。始めたばかりですので、今後何が必要か情報収集したいと思っています。

委員：全国的にそういったものに注目が集まっている状況なので、先走りすぎず遅れを取らないよう対応して欲しいと思います。

委員：外国の職員の方が多くいますが、この補助金というのは日本国籍がある職員が対象でしょうか？

事務局：研修支援補助金・就労定着補助金のどちらも国籍の要件を設けていません。外国人の方への補助実績があります。

(5) 高齢者補聴器助成事業について（資料 No. 5）

質疑応答なし

(6) その他

委員：AI が非常に進んできています。AI を活用することで、人手を減らしたり、事務作業の負担軽減することも可能になってくると思います。今後とも情報収集して、役立つようなことがあれば、示してほしいと思います。

事務局：貴重なご意見ありがとうございます。自治体においても、今後 AI を使って負担軽減を図りたいと考えております。介護の分野においては、認定審査について、広域連合と連携し AI を活用するシステム標準化を全国的に実施しており、負担軽減に取り組んでいます。一歩進んだ取り組みも行っておりますので、周知させていただきます。

8 連絡事項

9 閉会